

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	中央区
学校名	玉造小学校
学校長名	豊岡 真実

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・玉造小学校では、第6学年 90名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の平均正答率は78.0ポイントで全国平均を10.8ポイント上回った。算数の平均正答率は73.0ポイントで全国平均を10.5ポイント上回った。

正答数の中央値は、国語は全国が10問に対して本校は12問、算数は全国が11問に対して本校は13問という結果であった。

正答数分布グラフの算数においては、若干ではあるが2極化の傾向が見られた。

また国語の平均無回答率は1.3ポイントで全国平均の4.8ポイントより3.5ポイント、算数の平均無回答率は1.3ポイントで全国平均の3.4ポイントより2.1ポイント低い結果となった。本校児童は、最後まであきらめずに考えて問題を解こうとする意識が高いと考えられる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

すべての内容で全国平均を上回った。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国が71.2ポイントであるのに対し、本校は84.4ポイントと13.2ポイント上回った。

[算数]

すべての領域で全国平均を上回った。特に「図形」の領域については、全国が48.2ポイントであるのに対し、本校は61.1ポイントと12.9ポイント上回った。

また、「知識・技能」の観点では、国語で12.2ポイント、算数で10.3ポイント全国を上回り、「思考・判断・表現」については国語で8.8ポイント、算数で10.5ポイント全国を上回った。これは、すべての学級において基礎基本の定着のため個人学習の時間を設定したことと、個に応じた指導を取り入れた授業を展開した成果であると考えられる。

質問紙調査より

多くの質問事項において、全国より肯定的な回答の割合が高い。「授業以外の1日当たりの学習時間」を問われる設問で、「3時間以上」と答えた児童の割合は、全国が11.8ポイントであるのに対し、本校は26.7ポイントであった。また、国語、算数についても「○○の授業の内容がよく分かる」の項目に肯定的に回答する児童の割合が全国に比べて10ポイント以上高かった。日ごろから教材研究や授業改善に取り組んできた成果であると考える。

一方で「5年生までの授業でICT機器をどの程度使用したか」に対しては、授業の様々な場面で使用しているものの、使用頻度が全国より低いという課題が見受けられたので、今後、一層の活用の推進を図っていく。

今後の取組(アクションプラン)

学力向上の基盤ともなる生活習慣や学習習慣を保ち、授業の充実をさらに図りながら、学力の維持向上に努める。今後も、基礎基本の定着のための個別学習の時間を確保しつつ、授業においては個に応じた指導を取り入れた授業を展開することで、子どもの学びに向かう思考力・判断力・表現力・生きて働く知識・技能を育む。

一方で働き方改革を継続して進め、教員が子どもと向き合う時間を生み出すことによって、教材研究や指導方法の工夫改善につなげたい。またICT機器の効果的な活用方法等についても、引き続き情報収集を行い積極的かつ有効なICT活用を図っていきたい。

【 全体の概要 】

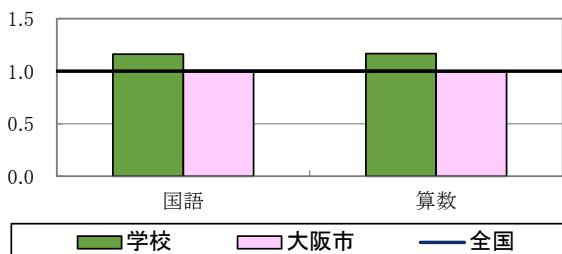
平均正答率(%)

	国語	算数
学校	78	73
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

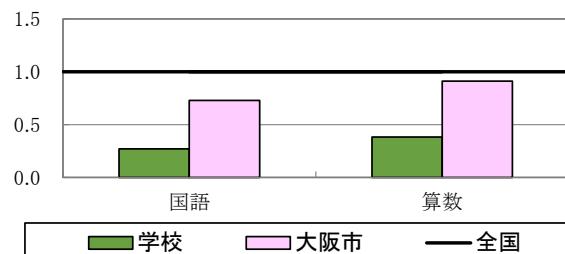
平均無解答率(%)

	国語	算数
学校	1.3	1.3
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



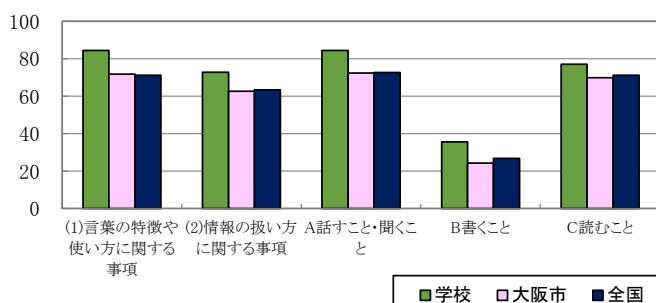
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	84.4	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に関する事項	2	72.8	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	84.4	72.4	72.6
B 書くこと	1	35.6	24.2	26.7
C 読むこと	3	77.0	69.9	71.2

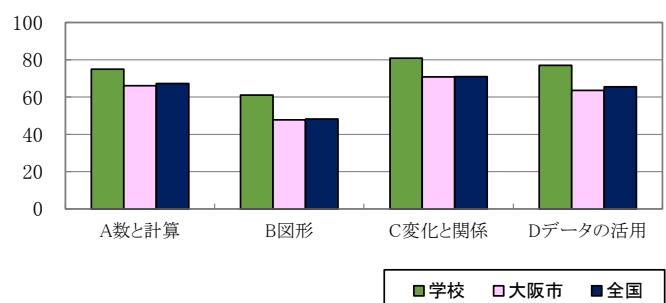
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	75.0	66.1	67.3
B 図形	4	61.1	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	80.8	70.8	70.9
D データの活用	3	77.0	63.6	65.5

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)

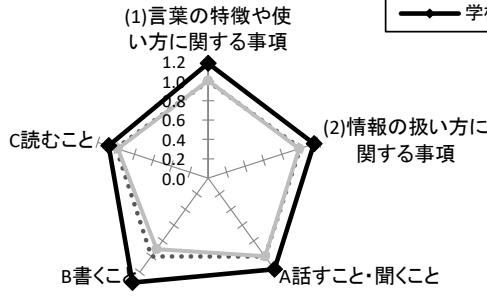


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



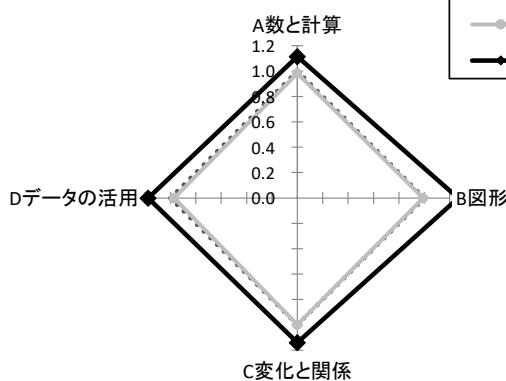
国語 領域別正答率(対全国比)

.....全国
—大阪市
—学校



算数 領域別正答率(対全国比)

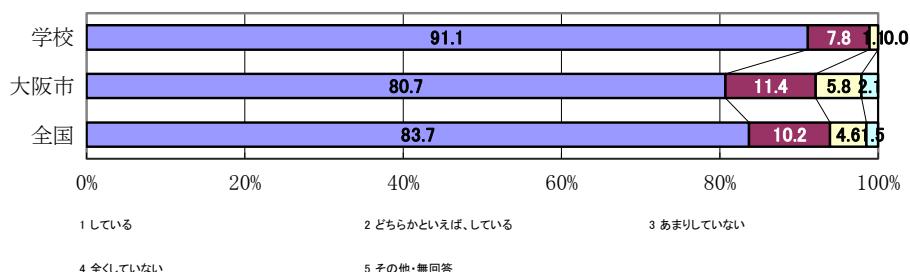
.....全国
—大阪市
—学校



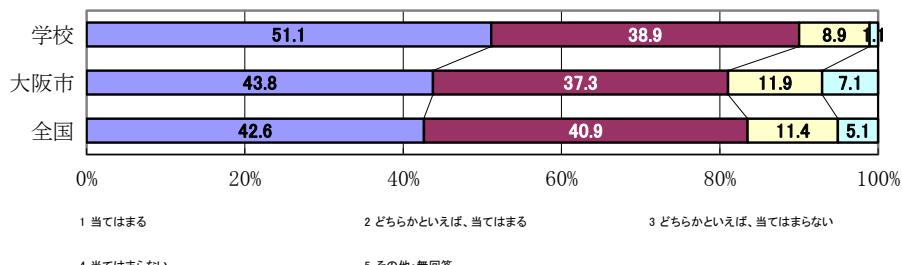
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

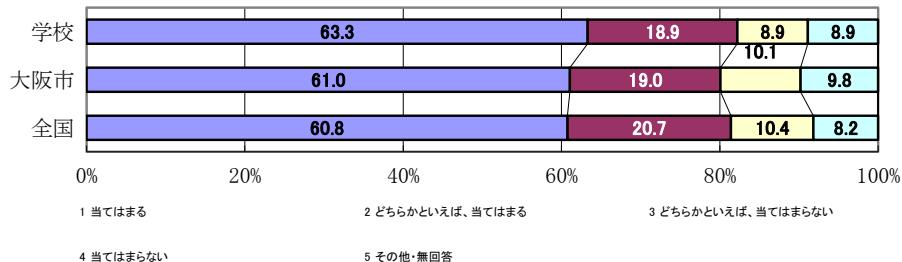
質問番号
質問事項
1
朝食を毎日食べている



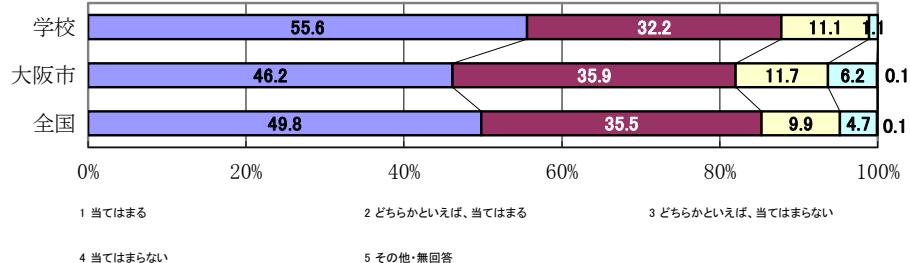
4
自分には、よいところがあると思う



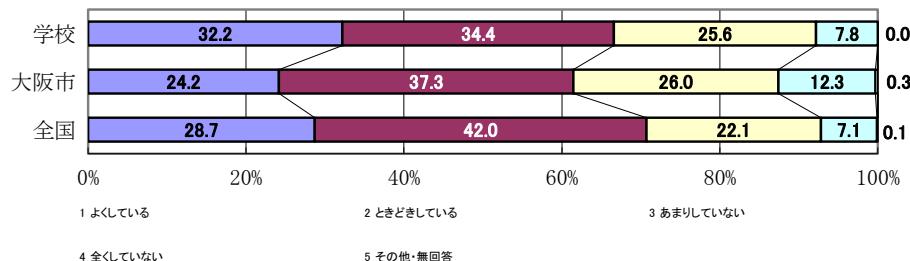
7
将来の夢や目標を持っている



12
学校に行くのは楽しいと思う



16
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含みます)



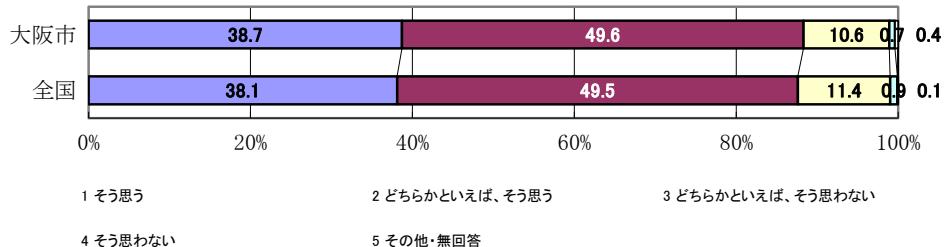
学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項
9

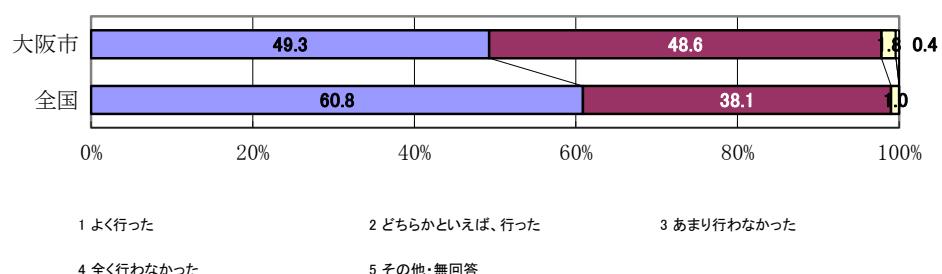
調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている

学校 「そう思う」を選択



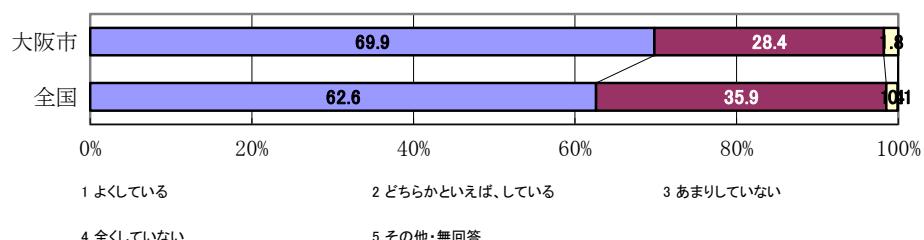
13
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



22
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている

学校 「よくしている」を選択



24
個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している(オンラインでの参加を含む)

学校 「よくしている」を選択

